

342 AVS-MVを用いた、SPECT 3次元複合画像による心筋血流と壁運動の検討

山科久代, 山崎純一, 森下健(東邦大1内) 高野政明,
小堺加智夫(東邦大R1) 杉田純一(ケー・ジー・ティ)

健康成人例と心筋梗塞患者を対象に, ^{99m}Tc -MIBIおよび ^{99m}Tc -HSADのgated SPECTを異なる日に施行し、Application visualization system medical viewer (AVS-MV)にて両者の画像を複合し、任意の方向から各時相での3次元表示を行った。健康例では、両SPECT画像の辺縁に若干の重なりがみられるものの、壁運動と心筋収縮の関係が明瞭であった。心筋梗塞症例では、 ^{99m}Tc -MIBIでの梗塞部の欠損と ^{99m}Tc -HSADにおける壁運動の低下部位を、同時に表示することが可能であった。これらはcine modeにて動態画像としても観察しうる。本法は、今後心筋血流と心動態を比較する上で、有用と考えられた。

343 薬物療法による心筋灌流改善の評価

— Tl-201心筋3次元表示を用いて —

山崎純一, 細井宏益, 山科久代, 森下 健(東邦大一内)
杉田純一(ケー・ジー・ティ), 高橋宗尊(島津)

今回我々は労作狭心症例を対象としてnisoldipine投与前後で運動負荷Tl-201心筋SPECT(心筋SPECT)を施行し、本剤の心筋灌流に及ぼす影響についてAVSソフトウェアにて作成した3次元表示から心筋灌流改善様式を観察した。

対象は梗塞後狭心症10例と労作狭心症7例の17例である。

Nisoldipine(10mg)投与前後で心筋SPECTを施行し、3次元画像を心筋形態の点から観察し、さらに閾値56%以上の左室容積を計測し比較した。

心筋3次元画像は心筋形態の評価ならび心筋容積の算出が可能であり、一部の症例では一過性の左室腔拡大がNisoldipineにより改善した。また閾値100～56%に設定された心筋容積は治療後で増加した。